

「日田市文化財保存活用地域計画」第2回ワークショップ 取りまとめ結果

日田市の歴史文化の特徴について

班	主な意見（キーワード）	その他の意見（キーワード）
①	<ul style="list-style-type: none"> 水と鵜飼 小鹿田焼 各地区の神社、祭り →後継者不足、子どもたちが日田の歴史文化を継承していくためには何ができるか 	<ul style="list-style-type: none"> 小鹿田焼の景観 咸宜園には当時青森からの門下生が2人 →相当な魅力があった 竹田市の岡城のように日田市にもシンボリックな歴史文化があるとよい
②	<ul style="list-style-type: none"> 日田（現在の日田市・昔の日田郡）は、全てが天領ではなかった →天領ではなかった地域（西有田、東有田など）の歴史文化も取上げるべきである 北部九州の真ん中に位置する日田 →筑後川、日田往還でつながる。筑後から来た商人が多く、成功して今も商家が残っていること 道、地形（盆地）、天気（気象・気候）、地名、方言からみられる様々な地域とのつながり 日田のイメージ＝閉ざされた場所、アクセスが悪い ←地形的要因（？） 福岡方面へのアピールが強いため、多方面への情報発信が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 酒呑童子山の伝説（昔は学校の課題図書だった） 日田は豊後国に属するが、文化圏は福岡 日田で商売している人のほとんどは筑後出身 咸宜園 豆田町 梨、ぶどう
③	<ul style="list-style-type: none"> 日田＝九州のへそ→日田からつながる道、河川から栄えていったこと 天領となった意味 なぜ方言に古語や京ことばが残っているのか なぜ日田市中心部が戦乱で荒れることがなかったのか（守りが強かったのか、攻める必要がなかったのか。） 小倉工場は戦争遺跡としてトンネルが残っている。 →昔は遊び場だったが、今の若い世代は知らない人が多い。 林業（木材だけではない。竹材の筏流しからはじまった） 社寺建築を多数担った日田（大山町）の大工たち 日下部氏・大蔵氏に加えて津江氏についても言及したほうがよい 戸山神社と英彦山、大蔵氏との関係 山城の調査（未調査のものも多い。坂本城など） 鵜飼について、担い手を市の職員として保存していくことはできないか 	<ul style="list-style-type: none"> 古代から熊本と交流があった 京都との交流等が方言からわかる →外から入ってきた言葉と変わらずに残った言葉との2種類がある
④	<p>各地にある舟つなぎ石→湖があった痕跡ではないか 鷹と湖の伝説、鵜飼、築場、小ヶ瀬井路時代以前からある用水路、地名に残る歴史 →”水（川）”が日田市の歴史文化におけるキーワード</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日田の地が湖であった言い伝え、湖が御神体の神社（中津市の薦神社） 築（やな）からつながる名前（「ヤナガセ」、「ヤナセ」等） 周辺地域ではなかなか見られない霧（地形から生まれる特徴） 各地に残る水路（朝日町、大井手等） 鉱山、水路掘りの技術者？ 刃連に大聖寺藩（加賀）の支藩の出身の方が居たとみられる場所があった？ →金銀錯嵌珠龍文鉄鏡の出自と関連があるのではないか！？ 元宮神社 久津媛神社と御林（国有林）

令和4年度第2回
日田市文化財保存活用地域計画ワークショップ

令和5年2月10日（金） 15時00分～
日田市民文化会館「パトリア日田」スタジオ1

15:00 開会

【第一部】

15:00～15:10

○第1回目ワークショップの報告

15:10～15:20

○地域計画パンフレット（文化庁）・竹田市概要版など

15:20～15:35

○無形民俗文化財の現状と保存継承にかかる課題（鶴飼）

【第二部】

15:35～15:45

○事務局案「日田市の歴史文化の特徴」について（説明）

15:45～16:35

○題目「日田市の歴史文化の特徴」について（グループワーク）

〈今後の予定〉

16:35～16:45

○今後の進め方について

○次回（第3回）開催予定日について

令和5年3月9日（木）15時00分～ 会場：未定

○その他

日田市の歴史文化の特徴について

※参考例

□地形・地下資源・川・水がもたらす文化

- ▽鷹と湖の伝説
- ▽日田盆地
- ▽水郷日田
- ▽温泉
- ▽鶉飼
- ▽小鹿田焼
- ▽日田林業
- ▽漆器
- ▽日田下駄

□交流の歴史

- ▽先史時代の石器石材環境からみえる人の動きと交流
- ▽原史時代の集落や墳墓からみえる他地域との交流

□魅惑の古代・中世

- ▽古文書（文献資料）があまり残っていないため、わからないことが多い。
その分、神秘的？
- ▽久津媛・五馬媛
- ▽中央（都）とのつながりが窺える日下部氏・大蔵氏
- ▽慈眼山文化・岳林寺文化

□発展する近世日田

- ▽天領日田と西国筋郡代
- ▽豆田と隈
- ▽廣瀬淡窓と私塾咸宜園

歴史文化の特徴に関する任意分類

任意 番号	任意種別
	【自然・地理的環境】
1	山 川 台地
2	水
3	地形
4	気象現象
5	景色 景観
6	名勝 天然記念物
	【歴史的環境】
7	先史（旧石器・縄文）
8	原史（弥生・古墳）
9	古代
10	中世
11	近世
12	近代以降
13	信仰 祭祀 年中行事
14	食文化（料理や食材）
15	歌舞音曲
16	伝統技術
17	人（先人・先哲）
18	昔話 言い伝え 伝承
19	他地域との交流
20	交通
21	土地利用 産業 生活 生業
22	教育
23	福祉

「歴史文化の要素（参考）」

参考元	名称・要素ほか（大項目）	内容ほか（小項目）
博物館の 展示から	火山活動などでできた地形と 地下資源の利活用	
	標高差からみえる植生の違い	
	川とともに生きる	
	日田林業	
子ども版 『日田市 の歴史 と文化財』 目次	日田の自然と風土	阿蘇産大噴火と日田
		津江の自然
	古代のひた	先史時代の暮らし
		吹上のムラと環濠集落
		古墳時代のはじまり
		前方後円墳の時代
		装飾壁画の世界
		古代の役所と石井駅
	中世のひた	武士の登場と大蔵氏
		大蔵永季と相撲節会
		津江山と大宰府天満宮
		蒙古襲来と日田
		日田の平安・鎌倉・室町時代
		室町時代の日田
		豊臣秀吉時代の日隈城
	近世のひた	代官支配から幕府領地へ
		日田代官と日田御役所
		江戸時代の交通
		日田商人の活躍
		農民の暮らし
		豆田の町人文化
		日田祇園と鶉飼
		廣瀬淡窓と私塾咸宜園
	日田林業の芽生え	

《資料8》

	近・現代のひた	日田の明治維新
		戦時下の日田
		日田の大水害
		将来の日田市
『日田市 の歴史 と文化財』 目次	日田の自然と風土	名勝耶馬溪
		阿蘇4噴火と日田
		津江山系に見る日田の自然景観と自然林
	古代のひた	日田盆地の弥生文化
		弥生から古墳へ
		日田盆地の古墳文化
		装飾壁画の世界
	中世のひた	大蔵氏と慈眼山文化
		大蔵氏と岳林寺文化
		日田盆地の仏教美術
		五馬・津江の仏教美術
		民間信仰と石造文化
		津江と老松天満社
		津江氏と津江山文化
	近世のひた	天領日田と西国筋郡代
		豆田と隈の町並み
		日田商家所有の文化財
		江戸時代の交通と三隈川
		近世日田の村々
		日田林業の興り
大原八幡宮と信仰		
廣瀬淡窓と私塾咸宜園		
日田の祭りと伝統行事		
日田の伝統技術		
小鹿田皿山と小野谷の水車		

	近・現代のひた	明治の遺産
		大正・昭和の遺産
埋蔵文化財 センター 「常設展 パネル」	自然的・地理的環境	日田市の地形
	先史（旧石器・縄文）	大山川流域の黒曜石
		〈旧石器〉五馬台地の獲物を求めて
		〈旧石器〉狩猟具の変遷
		〈縄文〉山と盆地の縄文社会
		〈縄文〉狩猟採集民の道具
		〈縄文〉土器の登場と移り変わり
	原史（弥生・古墳）	〈弥生〉盆地に吹く弥生の風
		〈弥生〉農耕具の伝来
		〈弥生〉甕棺墓の流入
		〈弥生〉日田のクニと吹上のオウ
		〈古墳〉久津媛・五馬媛とその時代
		〈古墳〉居館の成立と民のムラ
		〈古墳〉古墳文化の展開
		〈古墳〉装飾古墳と日下部氏の登場
	古代	〈古代〉古代日下部氏と日田郡の成立
〈古代〉日田五郷と行政区域		
〈古代〉文字と律令下の日田		
中世	〈中世〉大蔵氏の栄華と中世社会	
	〈中世〉信仰と生活	
埋蔵文化財 センター 「常設展 リーフレット」	はじめに ～日田市の地形～	
	～阿蘇4火砕流と小野川の埋没樹木～	
	旧石器時代 ～狩猟民の生活～	
	縄文時代 ～定住生活の始まりと精神文化の発展～	
	弥生時代 ～日田盆地の弥生時代～	
	古墳時代 ～大和王権の時代と暮らし～	
	古代 ～律令国家と日田郡の成立～	
	中世 ～中世社会と大蔵氏の栄華～	
	近世 ～永山城とその城下町～	

日田の鵜飼について

日田の鵜飼とは

「日田の鵜飼」は、安土桃山時代、豊臣秀吉の家臣が美濃（現 岐阜県）長良川から、鵜匠4名を連れてきたことから始まり、江戸時代を通して代官らの保護の下、川漁として行われるほか、代官らにも披露されていた。

明治時代末期あたりには遊船で鵜飼を見学出来るようにしたいいわゆる観光鵜飼が行われるようになり、昭和30年以降には治水工事などの影響により、漁業としての鵜飼漁は成り立たなくなり、現在では観光鵜飼が主となり、鵜飼漁の伝統技術が継承されているという状況である。

※昭和41年3月22日に大分県無形民俗文化財に指定

現状

- ・鵜匠 2 名
- ・棹差し（船頭）2 名

課題

- ・鵜匠、棹差し共に後継者不在
- ・観光スタイルの変化
- ・生計が不安定

取組

- ・日田市内の小・中学生を対象に「鵜飼授業」を提案
- ・公民館事業等での「鵜飼」を題材とした講座等の取組を提案
- ・市民対象の出前講座の題材として提供

1. 鵜飼とは



2. 日田の鵜飼の現状



《資料8》

